

<div>教育目標</div> <p>夢中になって遊び、 心豊かにたくましく 生きる力の基礎を培う</p>	
<div>年度末の最終評価</div>	
自己評価	<div>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月27日	学校運営協議会
最終評価	3月	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は『やってみよう！』『自分も友達も大切！』『しぜん大好き！』をキーワードに保育の充実をめざし、特に身近な自然との関わりの中での育ちに焦点をあてる。 ・週案や指導案作成時、担任だけでなく他の教職員の意見も取り入れることで、より『その時』にふさわしい活動ができるようにする。 ・毎日の保育の中での、子どもの育ちや環境や援助の工夫をポートフォリオで表す。 ・親子で絵本ノートを活用した取組では、家庭とも連携し、子どもたちの心をより豊かに育む。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例（ポートフォリオ）の数。</p> <p>○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか

- ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか
- ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか
- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

○週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容

1 学期、各学年のスタート時に、週 1 回のミニ園研の中で、一人一人の幼児やクラス全体の実態の把握を特に丁寧に行い、保育の充実に努めることができた。2 学期以降は月に 1～2 回の教員全体や学年別での話し合いの機会を週に 1 回以上もつことで、より深い幼児理解や、適切な環境構成や活動に努めることができた

○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り

週案の中に時期や実態に応じた保健指導や安全指導の内容も明示し、個々の幼児の実態に即した指導ができるように心掛けた。

○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数

ほぼ全園児が親子で絵本ノートを活用している。

学級では、全学年とも、週に約 4 冊の本の読み聞かせを実施している

○保護者アンケート

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われませんか

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5 歳児は 100%）

- ・夢中になって遊んでいると感じるときはありますか（4・5 歳児は 100%）

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか

100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか

100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか

99%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5 歳児は 100%）

- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか

98%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（5 歳児は 100%）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ミニ園内研修や園内研修において、テーマに即した内容に加え、その時々に必要な具体的な手立てや、教職員同士の連携などについて特に重点を置いて協議することができた。また以前にもまして、日々の教職員同士や担任と管理職との話し合いの時間を確保することで、多様な活動や個別に適した活動を保育の中で展開することできている。
- ・保健・安全指導は、学年や時期や個別の状況に応じて、理解しやすいように『視覚的な教材（手作り）』を活用して行っている。特に園外での安全な行動の仕方（道路の通行や横断など）を

	<p>家庭とともに身に付けられるように取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本やお話への興味は、保護者も実感しておられるように、着実に高まってきている。今後さらに園内の『絵本環境』を整えていくことで、より質の高い読書体験ができるようにする。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任はもとより、多くの教職員で一人一人の幼児の姿やクラスの実態にとらえ、細やかな環境構成や、言葉かけや見守り方など援助の仕方の工夫を日々積み重ねていく。 一人一人の特性に応じて、安全に活動できるよう、環境の整え方や教職員の援助の在り方についての工夫を重ねる。 より多くの幼児の絵本やお話への興味を高めるために、まずは絵本室の環境や他の場所で絵本に親しめる場などを整え、さらに魅力的になるような工夫をする。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>週末のミニ園内研修での園環境の見直し内容や、幼児理解の内容</p> <p>○週案をもとにした、保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り</p> <p>○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園生活の中で成長したと思われませんか 夢中になって遊んでいると感じるときはありますか 園で身近な自然にかかわり、季節を感じる体験をしていますか 自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか 生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか 絵本やお話に興味を持つようになってきましたか
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が幼稚園に対して、信頼感を持ち、多くの保護者は具体的な子どもたちの成長を感じておられる。 一人一人の子どもはもちろんのこと保護者のニーズにさらに的確に応えられる「園体制」を作っていてほしい。 今後も、絵本ボランティア・地域行事との連携などで協力していく。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の育ちを、小中学校等にもわかりやすく発信する。 ・ コロナ以前に行っていた交流や連携の取組を徐々に行っていく。 ・ 架け橋期（幼稚園）の指導計画の見直しを行い、小学校へも発信する。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画の作成と進捗状況や幼小連携の振り返り ○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組

中間評価

自己評価	<div data-bbox="165 510 341 546">各種指標結果</div> <p>○計画の作成と進捗状況や幼小連携の振り返り</p> <p>園からの働きかけに努めたことで、昨年度に比べ、2 学期後半以降の小学校との合同の取組の計画が進んだ。</p> <p>教職員は KKP の取組を通じて、教員一人一人が自覚的に連携に取り組む姿が見られる。</p> <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p> <p>幼稚園側の『接続期カリキュラム』作成の基礎となるように、週案をもとに、日々の保育を見直している。</p>
	<div data-bbox="225 891 477 927">分析（成果と課題）</div> <p>・ 計画計画の作成に向けては、長期的に取り組む必要があると判断したので、まず今年度は、互いの教育・保育を『参観する』→その中での『非認知能力』の育ちを探る取組を行う段階にまで至ること目指し、具体的に、2 学期後半から 3 学期に行うこととなった。</p>
	<div data-bbox="225 1081 564 1120">分析を踏まえた取組の改善</div> <p>・ 昨年に引き続き『みつば幼稚園オープンスクール』を 12 月に実施する。昨年度以上に参加者数を多くできるようにし KKP の施設に積極的に働きかける。その中で幼稚園だけでなく、保小中の教職員の『非認知能力』の育ちを見る目を高められるようにする。</p> <p>・ 本年度より、園児と児童との直接的な関わりをもてる取組が再開し、その中での育ちを共有できるようにする。</p>
	<div data-bbox="225 1373 903 1408">(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り</p> <p>○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組</p>
	<div data-bbox="225 1518 622 1554">学校関係者による意見・支援策</div> <p>・ 引き続き、園からだけではなく、地域からも、小中学校に働きかけ、積極的に『合同』の取り組みが行えるようにしていきたい。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
---------------------------------	----------------

（３）預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。 ・ 個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか ・ 預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>日々の預かり保育の様子を担当者だけでなく、教職員も捉え、通常保育との『つながり』も意識して保育計画を立てられるようにしている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の方にとって、預かり保育は子育て支援として役立っていますか <p>100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されていない保護者は除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか <p>97%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答（利用されていない保護者は除く）</p>
自 己 評 価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧な週案立案や週の振り返りを心掛けることで、特に3歳児の利用者も増えてきているが、預かり保育の利用時間が『安心した時間』となりつつある。 ・ 今年度『預かり保育通信』を定期的に担当者が作成し、預かり保育での子どもたちの様子や育ちなどを発信する取り組みが始めることができた。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育は利用する時間がさまざまであるが、短時間・長時間利用双方の子どもが、遊びを十分に楽しんだり、休息をとったりできるような、活動の流れの工夫をさらに行う。 ・ 『通信』の内容のさらなる充実や作成時の効率化を進める。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容と、感染症対策の振り返りを行う</p> <p>○保護者アンケート</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって。預かり保育は子育て支援として役立っていますか ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の中で学校運営協議会主催の『みつばの森運動会』を4年ぶりに再開することができ、理事が預かり保育のことを知る機会ともなった。 ・利用者数が増えている状況で、教職員が通常保育のさらなる充実に向かえる時間が少なくならないような配慮が必要となってくるのではないかと考えている。（ボランティアの充実など）

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う ・未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談を行う。 ・8月後半より開始予定の『満3歳児預かり保育』の充実に向けて、教育課程試案の作成を行う。 ・始業式・終業式・参観・毎月の誕生会後『ほっこり子育て広場』や家庭教育研修などの機会に、幼児期の子育てについて話し合ったり、園からも子育てに必要な情報を知らせたりする。 ・ホームページ掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信</p> <p>○保護者との『話し合い』や情報発信の回数。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど)</p> <p>○担当者による記録や満3歳児保護者アンケート（後期）により、取組の振り返りを行う。</p>

中間評価

各種指標結果
○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信

懇談だけでなく、毎日の保育前後の保護者との話し合いや、より多くの保護者とのコミュニケーションをとる努力を重ねてきた。またその内容は管理職をはじめ、多くの教職員で共有し、よりの確な援助につなげるようにすることができた。

園だよりは、内容を精選し『読みやすく・伝わりやすい』ものになるような工夫を重ねている。ホームページの発信回数は、少ない時期があった。

○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数

教育相談は参加者の年齢層や参加数に応じて、内容の工夫を行っている。(計画時や当日など) 満3歳児(つばみ組)の預かり保育が9月よりスタートすることができた。

ホームページを活用して、活動内容を前月に、広く知らせている。

○保護者アンケート

- ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか

100%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど)

96%の保護者が そう思うまたはとてもそう思うと回答(昨年度より9ポイントアップ)

自己評価

分析(成果と課題)

- ・昨年度導入された連絡アプリを最大限に活用し、よりの確に時期に応じた情報を発信することができた。一方で配信回数が増える傾向がある。
- ・教育相談(未就園児クラス)は前年度よりも回数を増やすことができています。
- ・満3歳児預かり保育の利用者が増加し、子どもも保護者も安定して『満足』している姿がみられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保護者にとってさらに『読みやすく』『伝わりやすい』表現に心がけていきたい。
- ・さらに連携を進め、保護者や園からの子どもに対する様々な思いや願いを交流させ、その内容を必要に応じて園全体で共有し、一人の一人の園児を支えていくようにする。
- ・満3歳児預かり保育の充実を目指し、引き続き園内の人員配置や安全対策などの工夫を行う。
- ・日常の保育や行事の様子を、登降園時や懇談・参観時に映像で伝える。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページでの教育活動の発信

○教育相談の内容の振り返りとホームページでの発信回数

○保護者アンケート

- ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか
- ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか

(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話し合いなど)

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・多忙な中『発信』は大変なことと思われるが、回数を重ねることよりも大切だが、一方で、一回一回の発信の中で『伝えたいこと』を明確にすることのほうが重要だと考える。
- ・園での子どもたちの様子を文章や口頭だけでなく、映像で伝えることも増えてくるのがよく分かった。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校との連携や交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。 ・ 感染症対応状況により、可能な範囲で、隣接する高齢者施設のことを知り、つながりを感じられるような交流を行なう。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</p> <p>○地域行事への参加の様子の振り返り</p> <p>○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り</p> <p>やはり今年度も施設利用者の方との直接的な交流をもつことは難しいが、園の行事と一緒に参観していただくなどの交流を始動することができている。</p> <p>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</p> <p>上京中学校2年生の家庭科の授業の中での『ふれあい体験』や『チャレンジ体験』の受け入れを再開し、交流する機会をもつことができた。</p> <p>○地域行事への参加の様子の振り返り</p> <p>様々な地域行事の再開が始まり、家庭から様々な行事に参加する機会は多くなり、多様な経験をするようになっていきている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。 <p>93%の保護者が そう思うまたはとても思うと回答</p>	自己
<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設との、直接的な交流の再開へのハードルは現状からして厳しいが、引き続き、可 	

評価	<p>能な方法で行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在園児や未就園児保護者や教職員を対象に施設との合同研修会も開催した。 <p>施設主催の『車いす体験』に5歳児が参加する計画がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりの中での子どもたちの育ちがみられますか。の設問は昨年度と比べて24ポイントアップした。 ・昨年度に引き続き、地域や近隣の幼児教育施設（小規模保育施設も含めて）に、毎月園の『おたより』その他を発信することを行っていることで、園の日常の取組や、園での子供の育ち、保育の中で『大切にしていること』を、様々な立場の方に知っていただいている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに地域・運営協議会（みつばの森）教育振興会（みつば会）などのかかわりの中での育ちを保護者に発信する努力を続けていく。 ・上京中学校との交流などでは、事前協議は行っているが、短時間であっても事後協議（リモートも含めて）を行えるよう申し出る。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り</p> <p>○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り</p> <p>○地域行事への参加の様子の振り返り</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負担感ではなく、『地域の中で育つ』という安心感を保護者に感じてもらえるように、無理なく参加できる行事にしていきたい。またそのために『従来通り』ではない取組方も考えていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（6）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>前年と比べ、すべての教職員の超過勤務時間を削減し年休等の取得率を上げる。</p>

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員が『働き方改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。 業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るもののメリハリをつける。 常に見通しをもって業務にあたり、必要な時には自らサポートを求めたり、他をサポートしたりする ・保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

中間評価

自己評価	<div data-bbox="167 607 339 640">各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・・管理職は－10 時間・その他教職員は－3 時間/月 ・年休や特休の取得率・・増加してきている。(特に子育て特休)
	<div data-bbox="225 752 480 786">分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、園としての新たな取組、地域行事の再開、園児数、教職員の異動などにより、超過勤務時間の減少が難しい状況ではあったが、徐々に減少してきている。 ・会議や打ち合わせの方法の見直しを続け、回数時間とも減少している。その時間や労力を保育についての話し合いや環境構成などに活用できている。
	<div data-bbox="225 994 564 1028">分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、特に保育に関わること以外の、一人一人の業務の効率化をさらに進める。 ・教職員間での業務の分担の見直し・先を見越した事前の準備・ICT を活用した効率化などを進める
	<div data-bbox="225 1189 903 1223">(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率
	<div data-bbox="225 1285 622 1319">学校関係者による意見・支援策</div> <p>より良い『教育活動』のために、幼稚園全体が協力をしあっていることを感じる。さらに必要に応じて地域の人材も活用できるように、園から積極的に声を上げてほしい。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

